

吉野ヶ里町立中学校の統合整備に係る基本方針



令和 7 年 11 月

吉野ヶ里町教育委員会

吉野ヶ里町立中学校の統合整備に係る基本方針

令和 7 年 11 月

第 1 章 中学校統合にあたり

1. はじめに

吉野ヶ里町では現在、町立小学校 2 校、町立中学校 2 校が設置されている。

それぞれの学校は地域とともにあり、児童生徒、教職員、保護者、地域住民によって、特色ある教育活動が展開されている。

しかし、全国的な人口減少及び少子高齢化が進行する中で、本町においても、学校の小規模化が進み、学校における教育活動、さらには学校運営など様々な面に影響を及ぼすことが懸念される。少子化の波は、児童生徒の教育環境、学校教育機能を損なう恐れがあることから、学校の規模適正化を図ることが喫緊の課題となっている。

2. これからの中学校のあり方について

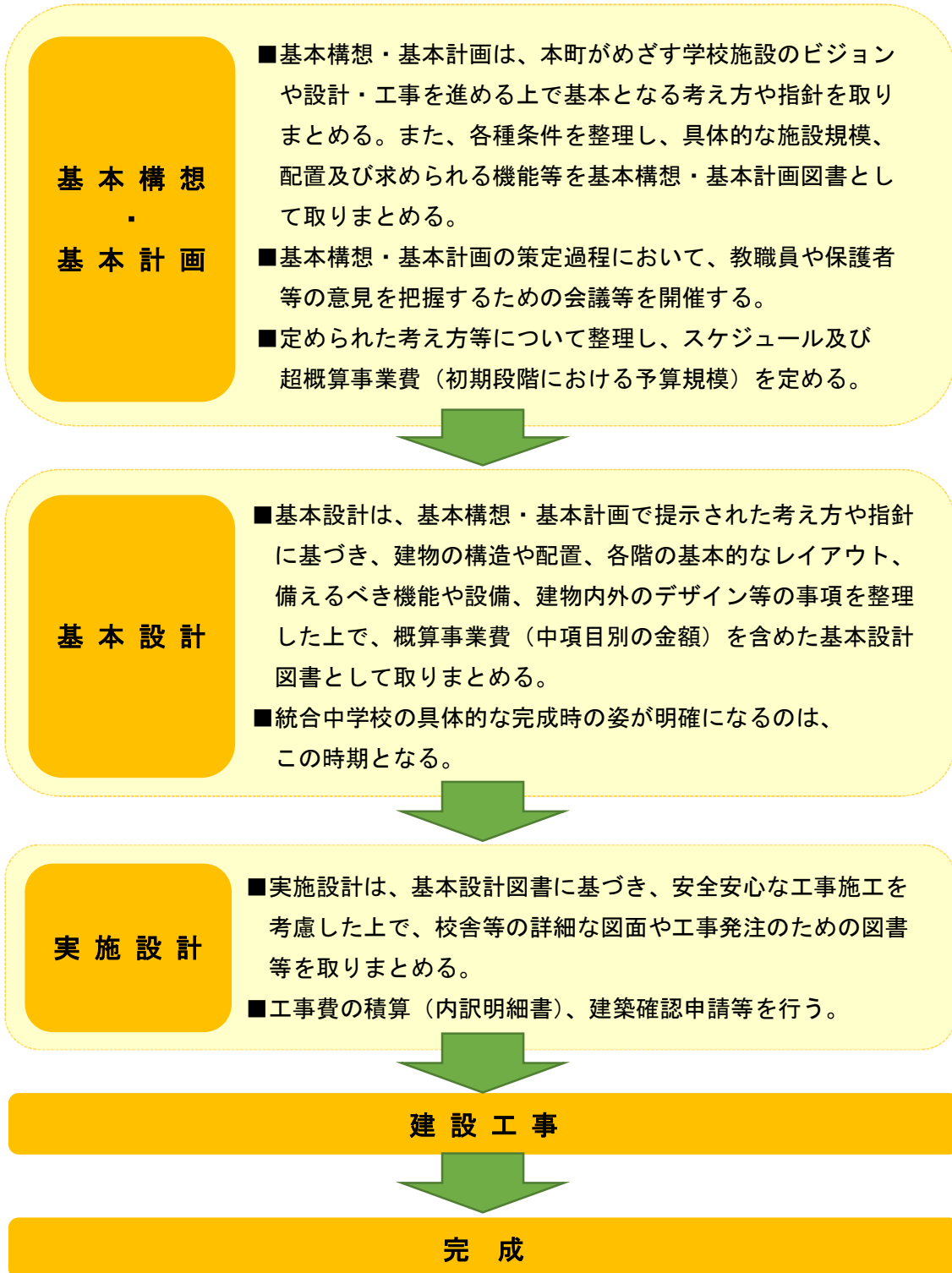
吉野ヶ里町教育委員会は、令和 3 年度に学校関係者や有識者等で構成する吉野ヶ里町学校規模適正化検討委員会を立ち上げた。検討委員会では 3 ヶ年をかけて、本町の学校規模の現状と課題、学校規模に起因する諸課題等について検討・検証を行い、教育委員会に対し、令和 6 年 3 月 15 日付け吉野ヶ里町学校のあり方に関する提言書（学校の適正規模・適正配置）において、「三田川中学校と東脊振中学校は統合することが望ましい」との提言を行った。

この提言を受けて、教育委員会としても、総合的に検討した結果、両中学校を統合することで、本町の中学生にとってのよりよい教育環境づくりを目指すべきであるという結論に達し、ここに「統合整備に係る基本方針」を定め、本方針に基づき、町立中学校の統合整備に向けた取り組みを推進する。

第2章 統合整備の基本方針について

吉野ヶ里町立「三田川中学校」及び「東脊振中学校」を統合した新中学校を新設するにあたり、統合中学校の開校目標を『令和16年4月』と設定し、以下の基本方針に沿った整備を行う。

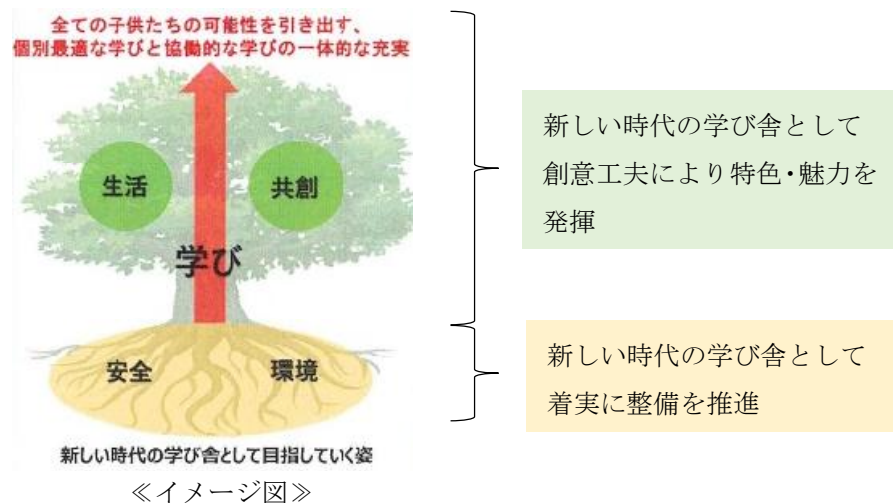
1. 統合整備の進め方



2. 新しい時代の学びを実現する学校施設の有り方（5つの姿の方向性）

- 【学び】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する
- 【生活】新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する
- 【共創】地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する
- 【安全】子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する
- 【環境】脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現する

⇒ 国が示した「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」を踏まえた学校づくりを行う。



3. 吉野ヶ里町教育大綱の4つの柱を推進するための学校づくり

- I. 「自立する人間の育成」
- II. 「世界を視野に入れた人間の育成」
- III. 「学校、家庭及び地域等の接続・連携」
- IV. 「魅力ある教育環境づくり」

⇒ 本町教育の4つの柱を推進するための学校づくりを行う。

4. 統合する各学校の「学校教育目標・めざす学校像」を踏まえた学校づくり

- 【三中】「夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成」
- 【三中】「凛とした元気・感動・温もりのある信頼される学校」
- 【東中】「自立と尊重～自ら学び、互いを尊重し高め合う生徒の育成～」
- 【東中】「誰もが安心して学べる学校」「自分らしくいられる学校」
- 「地域とともに成長する開かれた学校」

⇒ 統合する各学校の特色を生かすことができる学校づくりを行う。

令和6年3月15日

吉野ヶ里町教育委員会
教育長 様

吉野ヶ里町学校規模適正化検討委員会
委員長 中島 秀明

吉野ヶ里町学校のあり方に関する提言書

吉野ヶ里町における人口減少、少子高齢化により、学校の小規模化が進み、学校における教育活動、学校運営などに影響を及ぼし、児童生徒の教育環境、学校教育機能を損なう恐れがあることから、「吉野ヶ里町立小中学校の将来を展望したあり方」について検討を行い、学校の規模及び適正化に関する基本的考え方並びに適正化に向けた具体的な方策について提言を行うために、本委員会は令和3年度に設置された。

本委員会では、町内小中学校の現状や今後の児童生徒数を推計するとともに、児童生徒の保護者、教職員、児童生徒を対象としたアンケート調査を実施し、町民や関係者の意識の把握に努めながら、将来を展望した内容となるように審議を重ねてきた。

今般、本町の学校の適正規模・適正配置のあり方について取りまとめを行い、ここに提言を行う。この提言書が子どもたちにとって望ましい教育環境の整備に貢献し、より一層充実した教育を実現するための指針となることを希望する。

記

1. 小学校のあり方

三田川小学校は、将来18クラス以上が維持され、東脊振小学校は、11クラス以上が維持されること、また、それぞれ地域との結びつきが強く、災害時の避難所等の役割を有していることから地域コミュニティの中核的な場所として、今後もそれぞれ三田川小学校、東脊振小学校の維持が望ましいと提言する。

さらに、三田川小学校は、老朽化が進んでいるため、今後、建替も含めて検討が求められる。

2. 中学校のあり方

三田川中学校は、今後も9クラスは維持されるが、校舎等は既に建替が求められており、東脊振中学校は、現状6クラスで今後5クラスまで減少することが見込まれることから、適正規模を確保するために統合が求められる。

また、両中学校の通学圏域には重なる部分が多く、部活動など生徒が希望する充実した学校生活を実現するためにも、三田川中学校と東脊振中学校は統合することが望ましいと提言する。

基本方針 参考資料

基本方針策定時点(令和7年度)において、開校までに想定される計画スケジュール(案)となります。
 なお、計画の進捗等に応じて、計画スケジュールを随時変更する予定です。

[illegible]